

## 石山・芸術の森地域 石山部会 ニュース

石山・芸術の森地域では、平成 26 年度に「石山・芸術の森地域学校規模適正化検討委員会」を設置し、それ以降、地域の 4 小学校を対象に学校規模適正化についての検討を進めてきました。また、平成 27 年度からは「部会制」を導入し、「石山部会（石山小学校・石山南小学校）」と「芸術の森部会（常盤小学校・石山東小学校）」に分かれて、より具体的な検討を進めています。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

## 第 7 回石山部会について

6 月 28 日（火）午前 10 時から、石山まちづくりセンターで第 7 回石山部会を開催し、今年度の検討体制やスケジュール、校名の検討方法などについて協議しました。

また、事務局を務める教育委員会に加え、跡活用を担当するまちづくり政策局都市計画部の職員も同席しました。

## これまでの検討の概要（報告）

今年 2 月に提出した意見書の内容などが報告されました。

<主な内容>

- ・現在の石山小学校と石山南小学校を閉校し、石山小学校の敷地に新たな石山地区の小学校を開校する。
- ・新設校の開校時期は平成 31 年 4 月とする。
- ・新設校の校名や、石山南小学校の跡活用については、引き続き検討を行っていく。

## 地域の皆さんから寄せられた意見（報告）

2 月に開催した第 6 回部会以降、地域の皆さんから寄せられたご意見について、事務局から 5 件の報告がありました。

- 校名や校章については、地域にもアンケートなどで広く意見を求めてほしい。石山南小の児童・保護者の気持ちも大切にすべきだが、地域では「元に戻る」という声もある。こういった方々の意見も聞いてほしい。
- 非常に重要な問題なのに、地域の盛り上がりが不足しているように感じる。ニュースも回覧ではゆっくり読むことができない。ニュースがまちセン等に配架されているなら、その旨もしっかり明記すべきだ。  
(平成 28 年 2 月 電話・FAX)

## (事務局回答)

校名や校章は、今後の部会でも検討しますが、他の地域では、アンケート等を実施するケースが多いです。ニュースはまちセンや学校でも配布していますので、次回ニュースから明記します。

- ニュースに記載されている図面の文字がぼやけて見づらい。

(平成 28 年 3 月 電話)

## (事務局回答)

申し訳ありません。今後は、より鮮明な印刷を心掛けていきます。

- 新しい学校の校名は「石山中央」「石山緑」「石山公園」などがよいのではないかと。また、石山南小の跡地には啓北商業高校を移転してはどうか。なお、石山児童会館には思い入れもあり、廃館にはしないでほしい。  
(平成 28 年 3 月 電話・FAX)

**(事務局回答)**

校名や跡活用に関するご意見は、今後の検討の参考にさせていただきます。石山児童会館については、学校への複合化を予定しており、児童会館として存続することは困難と考えています。

- 過去に、学校から依頼を受けて郷土資料を寄贈した経緯がある。新設校でもこれらを展示するなどして、子どもたちのために役立ててほしい。  
(平成 28 年 5 月 電話)

**(事務局回答)**

ご寄贈いただいた資料は、子どもたちのために最大限活用していきたいと考えています。ただし、展示スペース等の制約はありますので、今後、両小学校にある展示品等を精査して、できる限り多くの資料を展示できるようにしたいと考えています。

- 石山南小には「愛の鐘」という設備があり、朝と夕方に時刻を知らせるメロディが流れている。これは地域に住む人や子どもたちにとって非常に大切なものであり、石山南小の閉校後もぜひ残してほしい。また、新設校にも設置してほしい。  
(平成 28 年 6 月 要望書)

**(事務局回答)**

「愛の鐘」は地域の皆さまの多大なるご寄附により、石山南小学校に設置されています。このまま残すことができれば理想ですが、石山南小学校の跡活用によっても左右されるため、今後の跡活用検討の中で併せてご相談したいと考えています。また、新設校への設置については、地域の方に新たなご負担をお掛けする話でもあり、別途、联合会さま等と検討させていただきたいと考えています。

**両校の概況について  
(報告)**

事務局から、石山小学校、石山南小学校の児童数等について報告がありました。

学校名		石山小学校		石山南小学校	
		27年度	28年度	27年度	28年度
児童数・学級数・教職員数	年度	27年度	28年度	27年度	28年度
	1年	31名/1学級	32名/1学級	41名/2学級	34名/1学級
	2年	24名/1学級	31名/1学級	30名/1学級	42名/2学級
	3年	31名/1学級	23名/1学級	34名/1学級	31名/1学級
	4年	33名/1学級	29名/1学級	40名/1学級	35名/1学級
	5年	28名/1学級	33名/1学級	41名/2学級	38名/1学級
	6年	33名/1学級	28名/1学級	34名/1学級	42名/2学級
	計	180名/6学級	176名/6学級	220名/8学級	222名/8学級
	特別支援学級	-	-	7名/1学級	6名/1学級
	教職員数	15名	15名	19名	19名

## 検討事項

### ◆今年度の検討体制・スケジュールについて

事務局から以下の説明がありました。

＜検討体制・スケジュール案＞

- 3月に開催した地域説明会での指摘を踏まえ、「石山地区商店街振興組合」から2名、「小学校と特に関係が深いと思われる方」各3名を委員に追加する。
- 今年度の石山部会は年4回（6月・9月・11月・2月）程の開催を目指す。
- 今年度の石山部会では「新設校の校名」や「石山南小学校の跡活用」について特に重点的に検討するほか、新設校の校歌・校章や交流事業、通学路等について意見交換を進める。
- 内容ごとに部会の委員を分けて検討してはどうか、との意見もあったが、継続的で一体性のある議論ができるよう、現在の部会の体制で検討を進めていく。

### ◆校名の検討方法について

今後の校名検討の参考として、平成24年に学校統合した真駒内地区の事例について事務局から説明がありました。

＜真駒内地区の事例＞

- ・校名検討委員会を新たに設置して全3回開催
- ・各校の児童・保護者、地域住民等を対象に校名案を公募
- ・新しい学校という観点から、現在の校名は使用不可として募集
- ・募集期間は約1か月間
- ・応募のあった校名案（311件）をもとに、校名検討委員会で協議し、「真駒内公園小学校」と「真駒内桜山小学校」を決定

## 委員意見など

委員から以下のようなご質問、ご意見がありました。

### ◆今年度の検討体制・スケジュールについて

- 人数が増えてかなり大きな部会となったが、たくさんの意見を聞いて検討したいと思って集めたメンバーである。せっかくなので、このままみんなで検討していくべきだと思う。

### ◆校名の検討方法について

＜公募に関するご意見＞

- 校名については、地域での検討を盛り上げて、みんなで決めていくべきだ。このため公募を行うことに賛成である。
- 公募には賛成だが、小学生だけではなく、卒業生である中学生にも募集した方がいいのではないかと。併せて校章も募集してはどうか。
- 中学生なら作曲できる生徒もいるのではないかと。もし、中学生に校名を募集するのであれば、併せて校歌も募集してはどうか。
- 公募に当たっては、地域の関心を高め、より多く応募してもらえるのが理想。そのためにも、方向性を定めたくうえで、時間をかけて地域に関心を持ってもらえるよう努力していくべきだと思う。

- 公募の際には地域行事等で呼びかけることで、さらに地域全体で盛り上げることができるのではないかと。
- 石山小に設置されている銅像の除幕式に出席したことがある。今でも当時を思い出して懐かしく感じることもある。今回の校名の公募が今の子どもたちのいい思い出に残るようにしてほしい。
- 真駒内では 300 件ほどの校名応募があったとのことだが少なく感じる。今後、地域を盛り上げるためにも、学校を中心としたまちづくりを積極的に進めていかななくてはならない。今回の公募がたくさん集まるようにしたい。
- 校名の公募については多くの住民に知ってもらう必要がある。宣伝をきちんと行っていくべきだと思う。

#### <校名に関するご意見>

- 校名検討に当たっては、両小学校の子どもたちが平等な立場でスタートできるようにすることが非常に重要。「石山小学校」など、現在の学校名は絶対に使用すべきではない。皆様には子どもの視点に立って考えてもらいたい。
- 真駒内地区の統合後の学校運営が上手くいったのは「新しい校名」があったからだと思う。石山地区でもそれに倣って公募する際には現在の校名は使用不可とすべきではないか。
- 校名を公募する際、「石山小学校」という名称を候補から外すのには抵抗がある。中学校も場所は 3 回も変わっているが、石山中の名称は残っている。校名を変えることには抵抗がある。
- 今回、新設校は現在の石山小の場所とされている。率直に言って、石山南小の方々は複雑な思いがある中で、子どもたちのためにこのような決断をしたと思う。その上、校名も石山小のままというのでは、石山南小に通っている子どもたちの思いはどうなるのか。
- 名前が石山小のままであるのと、新しい校名をつけるのとでは子どもたちの意識が違う。新しい名前のほうが新しい学校として受け入れられるのではないかと。
- どこにある学校か明確になるよう、「石山」という地名は残した方がいいのではないかと。「石山〇〇小学校」などの名前はどうか。
- 真駒内では 4 つの学校をすべて閉校し、2 つの新しい学校を開校した。ただし施設については、既存の校舎を利用した。石山では子どもたちが新しい気持ちで学校生活を送ることができるようにとの思いから、新しい校舎を建設することとした経緯もあり、名称についても新しくすべきではないか。
- 町内会で話をしても石山小の名称を残すべきという意見が多かった。新しい校名をつけるのは簡単だが、子どもの将来を思えばこそ、石山小の歴史や名称を残すべきではないか。そのためにも、公募の際には石山小の名称を除外すべきではないか。
- ニュースなどでこれだけ「新設校」をアピールしても、地域の中には「元に戻る」という印象がまだ根付いている。それを払拭するためにも新しい校名は必要。両校の子どもたちにとってもいいスタートができる。石山小の名前を残したいというのは、卒業生の皆さんに共通する願いだと思う。ただ、真駒内や資生館でも元の名前を残してはいないが、地域が上手くいっていない訳ではない。やはり石山小の名前をそのまま使うことには疑問がある。

- 今回から部会に参加したが、これまでニュースを見ていて、当然新しい学校になるという認識でいた。両校の児童を同じスタートラインに立たせるためにも、校名は新しくするのが妥当だと思う。
- 2年間、新しい学校を作るという前提で話し合ってきたと認識している。子どもたちには誇りを持って、胸を張って新しい学校に通ってほしい。閉校や吸収合併などのネガティブなイメージはできる限り払拭して開校に進むべき。教育はこれからの100年を見据えて考えるべきもの。やり直しはきかない。公募では現在の名称を候補に入れるべきではない。
- 石山南小の方々の気持ちを考えれば、新しい校名の必要性は感じていた。ただ、それにより石山小が閉校し、「開校〇〇年」という歴史が途切れるという認識はなかった。同じように考えている人も大勢いるのではないか。
- 真駒内公園小では、両校の記念品や歴史資料を展示するメモリアルルームを作り、両校の校章や校旗などが展示・公開されている。それぞれの小学校の歴史は大切に引き継がれている。
- メモリアルルームに両校の年表を掲示するなど、閉校してもしっかりと学校の歴史は受け継がれていることを感じてもらえるような工夫をすべきではないか。
- 石山小卒業生のお話を聞くと今の名前をそのまま残したい、という意見は多い。また、過去に「石山尋常小学校」などの名前だった時代もあり、仮に名称が変わっても歴史は引き継いでいってほしいとの声も聞いている。ただ私としては、これからの子ども達にとってより良い方向を検討していきたく考えているし、そこで決まったことにはしっかり賛成したいと思う。
- これまでの学校の歴史が消えるわけではない。新しい学校がスタートすると捉えて校名を考えていいのではないか。
- 石山小が開校してからの歴史だけでなく、石山という地域の長い歴史の中の一部として捉えていく必要があるのではないか。石山の中で、学校ができて、分かれて、また一緒になっていく。そういった考え方が必要ではないか。

## 決定事項

第7回石山部会では以下の方針を確認しました。

今年度は「新設校の校名」と「石山南小学校の跡活用」について重点的に検討する。  
なお、校名は今年度中の決定を目指す。

新設校の校名案は地域で公募する。  
なお、石山小学校と石山南小学校はいずれも閉校することとし、公募の際には「新たな校名」を募集する。

公募の時期や内容は次回部会で引き続き検討する。

## 今年度の委員一覧 (敬称略)

今年度の石山部会は石山地区町内会連合会から4名、まちづくり協議会から6名、PTAから各3名、石山商店街振興組合から2名、小学校関係者から各3名、学校長各1名、有識者2名の計28名で運営していきます。

氏名	団体	役職等
福土 昭夫	石山地区町内会連合会	会長(部会長)
阿部 和一	同上	副会長
五十嵐 敏明	同上	副会長
南 玲子	同上	女性部部长
土井 満洲男	石山地区まちづくり協議会	まちおこし部会
寺田 政男	同上	福祉部会
小川 洪充	同上	青少年・子ども部会
稲葉 泉	同上	スポーツ部会
宮下 進治	同上	事務局
吉山 直子	同上	事務局
江良 千夏	石山小PTA	会長
武田 敬子	同上	副会長
藤田 知佳	同上	副会長
河井 裕司	石山南小PTA	会長
中川 亜希子	同上	副会長
小島 浩正	石山商店街振興組合	副理事長
古内 一枝	同上	常任理事
吉田 健一	石山小関係者	同窓会会長
佐藤 正	同上	同窓会幹事
上野 まどか	同上	前PTA会長
大塚 英夫	石山南小関係者	前PTA会長
芦田 由美子	同上	元PTA会長
高橋 恵美子	同上	学びのサポーター
萬 智子	学校長	石山小校長
附田 裕哉	同上	石山南小校長
大室 道夫	有識者	幌西小校長(統合経験)
北嶋 雅見	同上	道銀総合研究所(司会)

※他1名

## 第8回の石山部会 について

第8回の石山部会は、校名や跡活用の検討方法などを議題に9月頃の開催を予定しています。

■ ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください ■

### 石山・芸術の森地域 学校規模適正化検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837

E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載します。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>